

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-107	中学校	社会	歴史的分野	1～3
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
229 学び舎	歴史 738	ともに学ぶ人間の歴史		

1. 編修の趣旨及び留意点

① この教科書は、生徒が学習に際して、本文を読み進め、図版を読み解いていくことによって、問いや疑問(課題)を持つことを想定しています。問いや疑問を持つことは、生徒が教科書の記述に対して自ら関わっていく第一歩となり、歴史学習で基礎・基本となる内容を獲得することを可能にします。

生徒の問いや疑問は個性的で、一人ひとり異なるものであるのが普通です。自由で豊かな発想がとびかう教室であれば、一つの問いや疑問に対して多くの生徒が多様な形でそれに応答し、中学生に相応しい学びあいになり立ちます。それは、この教科書のタイトル「ともに学ぶ人間の歴史」へ向かっていくものです。

この教科書は、そのような学びを積み重ねていけるように、世界の歴史を含む 120 テーマを設定しています。生徒は、このような学習の積み重ねの中で、歴史の大きな流れを世界の歴史を背景に理解するとともに、前の時代と比較することなどを通して、時代の特色や時代が転換する姿を認識し、それを踏まえて、日本の伝統と文化の特色を考えることが可能になります。

② 生徒の発する問いや疑問から学びあいへと進むためには、それに相応しい内容が、本文や図版として用意されていなくてはなりません。この教科書で力を入れて記述しているのは、その時代に生きる人びとの姿です。

人びとは、長い歴史の中で、いつも目の前の現実に向き合い、それに多様な形で取り組んできました。生徒が問いを発し、自ら関わろうとするのは、歴史のそのような具体的な場面に対してです。さらに、それぞれの時代の人びとの営みが、引き継がれるべき伝統を培い、文化をはぐくんできました。生徒が伝統や文化に触れて、感動を覚え、その特色に目を向けるのは、やはり人びとの姿にひきつけられてのことでしょう。

このような意味で、歴史の現場に立ち、そこで生きる人びとの姿(歴史上の人物)は、この教科書の中心的な教材であり、身近な地域の人びとの歩みにも目を向け、生徒自ら調査・探究できるように配慮しています。

③ この教科書は、日本列島の人びとの姿を描いていますが、その歴史の背景となる諸外国の歴史や文化、つまり世界史教材を多様に設定しました。

これら世界史教材は、生徒が小学校では学習しなかった歴史事象であり、はるかな世界から響いてくるものとの、新鮮な出会いとなります。その出会いから、これまで学んできた日本列島の人びとの姿との関連が、鮮明にとらえられ、生徒からの問いや疑問となって出てくるはずで、それによって、歴史の中の国際関係や文化交流を理解することができるようになります。

特に東アジア、韓国・朝鮮や中国との関連に重点を置くとともに、北東アジア(渤海、モンゴル、極東ロシアなど)にも、生徒の目が向けられるようにしました。日本列島の中でも、沖縄、東北地方、北海道の人びとの姿を具体的に描き、より広い視野で、多様な見方ができるように構成しています。

2. 編修の基本方針

① この教科書は、生徒が国際的視野に立ち、歴史の中の人びとの姿とその歩みを学ぶことによって、平和で民主的な国家及び社会の形成者へと向かって歩みだす、第一歩となることを目指しています。

② その基礎となるべきものは、歴史に関する幅広い知識と教養です。この教科書は、歴史研究にもとづく多彩で興味深い歴史の事実を、本文や図版に多様に表しています。またそれらは、人びとの生きる姿を描き、具体的な歴史の場面を提示するものであるため、生徒は問いや疑問をもとに、自らその事実の内実や意味を追求していきます。適切に選ばれた本文や図版は、生徒が真理を求める態度を形成していきます。また、歴史の場面での人びとの真摯な営みに接することによって、生徒は豊かな情操と道徳心を培うことができます。

③ また本文や図版は、人びとが豊かな自然の中で、勤労に励み、多様な生業・職業に携わることによって、生活・暮らしをたて、何よりも、自然を大切に、生命を尊重して、環境の保全に努めてきたことを、人類誕生以来の営みとして描いています。

生徒が、そのような歴史の中で生きる人びとの姿を、つぶさに見ていくとき、人間の尊厳、一人ひとりの個性、個人の価値に気づき、その創造性や自主・自律の精神の大切さに気付くように配慮しています。

- ④ さらに、生徒が人びとの営みを見ながら、その実態や意味を追求することは、そこで培われた伝統と文化を尊重し、それを生み出した人びとへの感動をひきだします。
- また、東アジア、さらに世界の人びとの営みにも目を向けるとき、それら他国の人びととの共存や連携の意識を生みだします。また、その点から戦争の惨禍に関する多くの本文や図版に接するとき、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うことが期待できます。
- ⑤ 歴史の場面を、人びとの営みとして、本文や図版に表すにあたって、各時代の女性の生きる姿を具体的に描くことに力点をおきました。これは男女の平等のみならず、自他の敬愛と協力を重んずる態度へと結実します。また、生産に取り組み、懸命に働く人びと、生活の困難を乗り越えようと努める人びと、さらにはアイヌや沖縄の人びとにも力点をおいて描いています。これらのことは、生徒が正義と責任を重んじ、公共の精神に基づいて、主体的に社会の形成に参画しようとする態度を形成することに資するものです。

3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
学習課題の設定／章の扉／学習のまとめ／章のふりかえり	<p>①各時代(部)の学習のはじめに、課題意識を育成できるような導きを設定し生徒が進んで知識を深め真理を求める態度を養えるようにしました。(第1号・2号)</p> <p>②章のはじめに、各地域の生活や世界のつながりを視覚的に捉えられるページを設けて、生徒の課題意識を育成し、知識を深め真理を求める態度を養えるようにしました。(第1号・2号)</p> <p>③部の学習のまとめでは、さまざまな言語・表現活動を通して、時代の特色や歴史の転換について、自分の言葉で表現し、大きな歴史の流れを自主的に理解して、知識を深め真理を求める態度を養えるようにしました。(第1・2号)</p> <p>④章のふりかえりでは、テーマにそって学習をふりかえり、知識を深め真理を求める態度を養えるようにしました。(第1号)</p>	<p>① 1,57,89,145,193,257 ページ</p> <p>②10～11,32～33,56～57,88～89,114～115,144～145,170～171,192～193,222～223,256～257 ページ</p> <p>③54～55,86～87,142～143,190～191,254～255,292～293 ページ</p> <p>④30,54,86,112,142,168,190,220,254.290 ページ</p>
歴史への案内	<p>①学習のスタートに、地域に刻まれ、記憶されている歴史と接することを例として、歴史を学ぶ意味を考え、知識や真理を求める態度を養えるようにしました。(第1号)また、地域の博物館などで調べる活動も含めて、生活文化や文化財に目を向け、伝統や文化への関心を持てるようにしました。(第5号)</p> <p>②小学校の学習をふりかえり調べ学習の方法を体得できるようにし、例題を通して年代のあらし方が身に付くようにするなど自主的な学習を促しました。(第2号)</p>	<p>①4～5,140～141 ページ</p> <p>②6～9 ページ</p>
第1部原始・古代 第1章 文明のはじまりと日本列島	<p>①ラミダス猿人の骨、アブ・フレイラ遺跡、野尻湖遺跡などの遺跡・遺物を具体的に取り上げ、生徒が考古学者のような気持ちになって実証的に探求し、知識や真理を求める態度を養えるようにしました。(第1号)</p> <p>②厳しい自然環境の中で、栽培種を創りだし、道具や技術の改良を進めた人びとの努力を学び、環境の保全に寄与する態度や勤労を重んずる態度を養えるようにしました。(第2・4号)</p> <p>③人びとの悩みや社会の矛盾に向き合う中で生み出されたブッダ、イエス、孔子の宗教や思想への理解を通して、多様な宗教や文化を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第3・5号)</p>	<p>①12～29 ページ</p> <p>②12～17, 19,20～21,23,24～29 ページ</p> <p>③18～19,21,23 ページ</p>
第2章 日本の古代国家	<p>①黒井峯遺跡、平城京跡など重要な遺跡・遺物を取り上げ、さらに「魏志倭人伝」、『宋書』、木簡、戸籍などの文字史料を通して、歴史を実証的に探求し、知識や真理を求める態度を養えるようにしました。(第1号)</p> <p>②卑弥呼や最初の仏教指導者となった女性たち、平安時代の女性作家などを取り上げ、男女の平等や個人の価値を尊重してその能力を伸ばし、主</p>	<p>①34～45, 51 ページ</p> <p>②34～35, 38,52～53 ページ</p>

	<p>体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました。(第2・3号)</p> <p>③飛鳥寺、平城京、東大寺大仏、正倉院宝物、かな文字、平等院鳳凰堂などについて、国際的なつながりや影響を理解して幅広い知識を身に付け、文化への関心を高め、尊重する態度を養えるようにしました。(第1・5号)</p> <p>④『日本書紀』、『古事記』、『風土記』、『源氏物語』、『枕草子』などの書物を通して、当時の人びとの信仰、物の見方や感じ方に気付き、文化への関心を深められるようにしました。(第1・5号)</p> <p>⑤8世紀の伝染病や大地震、陸奥国大津波など災害の歴史に目を向け、生命を尊び環境保全に寄与する態度を養えるようにしました。(第4号)</p>	<p>③38～39,42～43, 46～47,52～53 ページ</p> <p>④47,52～53 ページ</p> <p>⑤46,50 ページ</p>
<p>第2部中世 第3章 武士の世</p>	<p>①荘園に住む人びと、荒地を開墾し土地を守ろうとする武士たち、手工業や流通に携わる人びと、惣村の人びとなど、働く人びとの姿や努力を政治や社会の仕組みの中で理解し、自主・自律の精神や勤労を重んじる態度を養えるようにしました。(第1・2号)</p> <p>②一遍など鎌倉仏教の万人平等の思想や室町時代の女性の労働などを通して、男女の平等や自他の敬愛を重んじ、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました。(第2・3号)</p> <p>③気候変動と飢饉を取り上げ、その対策や盆踊りの起源などを通して、生命を尊び、環境の保全に寄与する態度を養えるようにしました。(第4号)</p> <p>④『春日権現験記』、『粉河寺縁起絵巻』、『一遍聖絵』、『洛中洛外図屏風』などの鮮明で大きな図版から、文化財に親しめるようにしました。また、『平家物語』と能「敦盛」の関係や、今日につながる建築・芸能・文芸・行事などの伝統文化が形成された過程を理解し、多くの人たちの協力のもとに東大寺大仏の再建や銀閣の建設が行われたことを学んで、伝統と文化を尊重し継承する態度を養えるようにしました。(第5号)</p>	<p>①58～59,62～63, 68～71,75,78～79, 84～85 ページ</p> <p>②66～67 ページ 78～79 ページ</p> <p>③71,82 ページ</p> <p>④60～61,63,65～68,71,74～76,82～83 ページ</p>
<p>第3部近世 第4章 世界がつながる時代</p>	<p>①サツマイモ、コショウ、銀、生糸、絹織物、火縄銃などの産物・製品とそれを扱う人びとに注目して、諸地域とのつながりや政治・経済・社会の変化を、アジアとつながったヨーロッパなど国際的な関係の中で理解し、幅広い知識を身に付けられるようにしました。(第1・2号)</p> <p>②戦国大名、信長、秀吉、江戸幕府の政策について、南蛮貿易、鉄砲衆、領国経営、検地と刀狩、江戸の町づくり、参勤交代、宗教や外交政策などのテーマを通して、政治・社会の大きな変動をつかみ、幅広い知識を身に付けられるようにしました。(第1号)</p> <p>③『南蛮屏風』、『洛中洛外図屏風』、『唐獅子図屏風』、『大坂夏の陣図屏風』などの鮮明で大きな図版から、文化財に親しめるようにしました。また、ヨーロッパ文化の伝来や、桃山文化の特色を、政治や社会の大きな変化の中で捉えられるように意を用い、文化への理解を深められるようにしました。(第1・5号)</p>	<p>①90～97 ページ</p> <p>②95～111 ページ</p> <p>③92 ページ 96～98 ページ, 100～101 ページ, 110 ページ</p>
<p>第5章 百姓と町人の世</p>	<p>①加賀や河内の村、蝦夷地、堂島、日本橋などの地域に焦点をあて、交通網の発達により地域と地域がつながる様子や社会全体の仕組みをつかみ、幅広い見方や知識が身に付くように意を用いました。(第1・2号)</p> <p>②米、綿花、昆布などの生産者や江戸の小商人の技術や工夫を通して、勤労を重んじる態度を養うとともに、米を中心とする経済の仕組みや幕府の改革、百姓一揆など政治・社会の動きについて知識を深められるようにしました。(第1・2号)</p> <p>③淀屋辰五郎、シャクシャイン、雨森芳洲、申維翰、徳川吉宗、田沼意次、杉田玄白、大黒屋光太夫、松平定信、渡辺崋山、高野長英、水野忠邦などの人物に焦点をあて、その行動や発言を通して政治・社会・学問・他国との関係などを幅広く理解するとともに、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました。(第1・3号)</p> <p>④蘭学や国学などの新しい学問を開いた人びとの熱意と努力を通して、真理を探究する態度を養えるようにしました。(第1号)</p> <p>⑤寺子屋の風景や学習内容などを取り上げて、江戸時代の教育について、生徒が親しみをもって理解できるように意を用いました。(第2号)</p>	<p>①116～123,126～129 ページ</p> <p>②116～119,122～123,126～131 ページ</p> <p>③120～127, 132～133,136～139 ページ</p> <p>④132～133 ページ</p> <p>⑤134～135 ページ</p>

	⑥『上野浅草風俗図巻』、『熙代勝覧』、『凱風快晴』、『源頼光公館土蜘蛛妖怪図』などの鮮明な図版から文化財に親しみ、伝統と文化を尊重する態度を養えるようにしました。また、元禄文化や化政文化の特色を、商業の発達や町人・庶民の成長、教育の普及と関連させて記述し、文化を生み出す背景への理解を深められるようにしました。(第1・5号)	⑥120～121,128ページ 134～135,139ページ
第4部近代 第6章 世界は近代へ	①アメリカ合衆国の独立、フランス革命、産業革命など欧米の近代化について、人びとの生活を通して大きな変化が理解できるように意を用いました。アメリカ先住民、フランス革命期の女性、ハイチ革命、産業革命期の児童労働などを通して、個人の価値や正義の実現を重んじる態度を養えるようにしました。(第1・2・3号) ②産業革命の進展と欧米のアジア進出について、綿花、綿織物、アヘン、茶などの生産や貿易に焦点をあて、世界の変化が理解できるように意を用いました。(第1号) ③幕末の政治や社会の変動を、外国との関係、幕府と薩摩・長州などの勢力との対立と戦争、民衆の生活と行動の視点から理解を深められるよう意を用いました。(第1号) ④産業革命期の都市や安政大地震を取り上げ、都市問題や災害の歴史に関心を深め、環境の保全に寄与する態度を養えるようにしました。(第4号)	①146～153ページ ②150～151,154～159ページ ③158～167ページ ④151,161ページ
第7章 近代国家へと歩む日本	①日本の近代化の歩みについて、新政府の諸改革を理解するとともに、地租改正後に増産に励んだ農民や養蚕農家の結社など民間の努力を通して、自主・自律の精神や勤労を重んじる態度を養えるようにしました。(第1・2号) ②木戸孝允、岩倉具視、福沢諭吉、中江兆民、千葉卓三郎、伊藤博文などの人物に焦点をあて、日本が、欧米の思想や制度に影響を受けながら近代化をとげ、立憲政治を成立させるに至った道筋を理解し、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました。(第1・3号) ③和田英、津田梅子、自由民権運動期の女性たちを取り上げ、男女の平等を重んじ主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました。(第3号) ④学校制度の特色について、生徒が身近に感じられる教科書の内容や学校生活などを通して理解し、歴史を主体的に学べるように意を用いました。(第2号) ⑤領土の画定や条約改正によって、日本の国際的地位が明らかになったことを理解し、他国を尊重し国際平和に寄与する態度を養えるようにしました。(第1号・5号) ⑥沖縄やアイヌの人びとの生活の状況を理解し、少数民族や様々な地域が等しく尊重される社会の形成に寄与する態度を養えるようにしました。(第3号)	①172～181ページ ②172,178～179,182～187ページ ③180～181ページ 182～183ページ ④174～175ページ 187ページ ⑤178～179ページ 188～189ページ (195,199ページ) ⑥188～189ページ
第5部二つの世界大戦 第8章 帝国主義の時代	①列強が武力を背景に各地を分割・植民地化していった世界の状況を理解して、第一次世界大戦につながる戦争の背景・原因をつかむとともに、分割されたり戦場となったりした国や地域、戦場の兵士や国民の生活などを通して、他国を尊重し国際平和に寄与する態度を養えるようにしました。(第1号・5号) ②第一次世界大戦後の国際協調の動きや民族運動、普選運動、女性運動、労働運動などを、国際的な広がり・つながりの中で理解できるように意を用い、正義と責任を重んじ主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました。(第1・3・5号) ③製糸工女や米騒動に関わる女性、『青鞥』の発刊や女性参政権運動、マリー＝キュリーや柳寛順など植民地の女性の願いや行動を取り上げ、男女が共に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました。(第3号) ④普通選挙運動の進展と第1回普通選挙、選挙権を得られなかった人びとについての理解を通して、主権者としての意識を高め、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるようにしました。(第1・2・3号) ⑤ハンセン病患者に対する隔離政策を取り上げ、ハンセン病への正しい理	①194～199,202～203,206～211ページ ②208～209,211～217ページ ③202,212～219ページ ④218～219ページ ⑤219ページ

	<p>解を促進し、偏見や差別のない社会の形成に寄与する態度を養えるようにしました。(第3号)</p> <p>⑥外山亀太郎の遺伝の研究、黒田清輝の洋画など学問・教育・芸術において、伝統的な文化の上に欧米文化を取り入れて近代文化がつけられていったことを理解し、日本の文化への理解を深めてこれを尊重する態度を養えるようにしました。(第1・5号)</p>	⑥200～201 ページ
第9章 第二次世界大戦 の時代	<p>①世界恐慌と各国の対策、ファシズムの台頭、日本の中国侵略を経て第二次世界大戦が起こった背景・戦争の経過・結果を理解できるように意を用い、戦争の原因や惨禍を知って、他国を尊重し国際平和に寄与する態度を養えるようにしました。(第1・5号)</p> <p>②兵士の戦い、戦時下の国民生活、勤労働員や学童疎開など、全国民を巻き込んだ総力戦について理解し、沖縄戦や原爆投下、アジアの戦争被害者の話、『アンネの日記』、特攻隊員の遺書などの若者の声を通して、自主的に歴史と向き合って学び、国際平和に寄与する態度を養えるようにしました。(第1・2・5号)</p> <p>③「東京行進曲」から、雑誌、映画、流行歌、ラジオなどが関わりあって大衆文化が形成されていく過程を通して、文化と産業や社会の変化を関連させて多角的な理解を深め、文化を尊重する態度を養えるようにしました。(第5号)</p>	<p>①226～253 ページ</p> <p>②234～253 ページ</p> <p>⑤224～225 ページ</p>
第6部現代 第10章 現代の日本と 世界	<p>①戦後改革と社会の変化を理解し、初の女性の国会議員や子供議会などを取り上げ、主体的に社会に参画する態度を養えるようにしました。(第1・3号)</p> <p>②日本国憲法の制定過程を通して、国の基本法である憲法への理解を深め、日本と世界の平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第1・5号)</p> <p>③サンフランシスコ講和会議、安保条約の改定、高度経済成長、沖縄返還、日中国交正常化、石油危機などを経て日本が歩んだ道と、朝鮮戦争、冷戦、ベトナム戦争、社会主義陣営の崩壊とグローバル化など世界の歩みを関連させて理解し、日本と世界の課題に関心を深めて平和と発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第1・5号)</p> <p>④パレスチナやイラクなど戦争が続く国や地域について理解し、また植民地支配や戦時下の人権侵害を問い直す国際的な動きにも目を向けて、正義と責任を重んじ、国際社会の平和と発展のために寄与する態度を養えるようにしました。(第3・5号)</p> <p>⑤東日本大震災の被災地の復興と防災への意識を高め、また、核実験による被ばく問題、公害問題、福島原子力発電所の事故から、科学技術と環境との関係を考え、生命を尊び環境保全に寄与する態度を養えるようにしました。(第4号)</p> <p>⑥子どもの姿や声、行動などを随所に入れ、社会の一員として主体的に社会に参画する態度を養えるようにしました。世界の子どもたちの夢を知り、自分の夢について考えることを通して、平和を尊び、個人の価値を尊重して能力を伸ばし、国際社会の発展に寄与する態度を養えるようにしました。(第2・3・5号)</p>	<p>①258～259 ページ 262～263 ページ</p> <p>②260～261 ページ</p> <p>③264～289 ページ</p> <p>④278～283 ページ</p> <p>⑤268～269,272～ 273,286～287 ページ</p> <p>⑥256～260,262～ 263,266,269,272, 276～277,280, 282～283,286～ 287,289 ページ</p>
身近な地域の 歴史を調べる	①地域の博物館での学習や、江戸時代につくられた水路の調査などを通して、郷土の歴史に関心を深め、郷土の文化を尊重し、継承する態度を養えるようにしました。(第5号)	①140～141 ページ
歴史を経験する	<p>①火おこし、糸紡ぎなどの体験を通して、自主性、創造性を培い、生活との関連を重視して歴史の理解を深められるようにしました。(第1・2号)</p> <p>②インターネットや図書などからの調べ方、家族からの聞き取り方などをていねいに示しました。調べる、まとめる、発表するなどの活動を通して、個人の価値を尊重し、思考力や創造性を培うことができるようにしました。(第2号)</p>	<p>①30～31,168～ 169 ページ</p> <p>②112～113,220～ 221,290～291 ページ</p>

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
26-107	中学校	社会	歴史的分野	1～3
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		
229 学び舎	歴史 738	ともに学ぶ人間の歴史		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

- ① 全体を歴史への案内、第1部原始・古代、第2部中世、第3部近世、第4部近代、第5部二つの世界大戦、第6部現代とし、世界の歴史を背景に、日本の歴史の流れを大きくつかみ、理解できるように意を用いました。各部の冒頭に、学習課題を設定し、生徒が課題をもって学習に取り組めるようにしました。第1章ではテーマごとに学習課題を具体的に示し、課題設定の仕方の導きとしました。各章の冒頭に、特色ある教材を設定して、その時代の特色を印象深く学べるようにしました。また、各部に設定した学習のまとめでは、時代の特色と時代の転換をふりかえりながら大観し、言語表現活動が行えるようにしました。
- ② 伝統や文化は、人びとの生活と営為のなかで創造され、継承されるとの理解のもとに、文化遺産の名前と作者の名前だけに止まらず、文化を生み出した人びとの願いと社会の状況を具体的に描き出すことに意を用いました。各時代の文化の特色を、比較関連させながら整理できるように、年表ページの写真・表を充実させました。
- ③ 歴史上の人物については、指導的な立場の人物のみならず、様々な分野・階層の男女の生活や社会的な業績を、具体的に叙述しました。また、各時代で子どもや青年の生き方や労働・学習について取り上げ、生徒の関心と共感をよび起こせるようにしました。
- ④ 背景となる世界の歴史の扱いを充実させ、第4章は「世界がつながる時代」として東アジア・大西洋・インド洋の交易・交流を具体的に取り上げました。また、北東アジアの動向に目を向けられるように、記述しました。各章の扉ページでは、世界を俯瞰できる地図の上に、その時代ごとに設定したテーマに基づいて、世界の状況をビジュアルに示しました。年表ページでも日本と同時代の世界の事項を丁寧に記載しました。特に宗教のおこりについては、その開祖の生き方や教えを具体的に叙述するよう意を用いました。全体として、国際関係や文化交流のあらましを深く理解できる構成となっています。
- ⑤ 各テーマの導入には、歴史の現場となった各地域の様相・できごとを具体的に記述し、地域の視角から歴史を考えられるように工夫しました。地域の遺跡や文化財、博物館や資料館を各所で取り上げました。とくに、歴史への案内(140～141ページ)に「地域の博物館で調べる」を設けて身近な地域の学習が行えるよう配慮しました。絵画資料・写真・文書・新聞・統計資料など多様な資料を、大きく鮮明な画像で掲載し、読み取って活用できるようにしました。歴史地図は、中学生各学年の学習に資するように103点を新たに描き起こし、裏見返し「歴史地図(日本)」では、千島列島から南西諸島・小笠原諸島に至る全域を1枚に収めて、人びとの生活の舞台である日本全体をとらえられるようにしました。
- ⑥ 各テーマを、「学習内容の構造化と焦点化」を特に重視して設定し、歴史の具体的場面や時代を生きる人びとの姿を通して各時代の特色を理解できるように留意しました。そのような学習を積み重ねることによって、生徒自身で歴史の大きな流れをとらえ、歴史像をイメージすることができるように、各章の連関を図りました。
- ⑦ 近現代の学習を重視し、「世界は近代へ」「近代国家へと歩む日本」「帝国主義の時代」「第二次世界大戦の時代」、さらには「現代の日本と世界」の五つの、64テーマを設定しました。第二次世界大戦後の現代史学習は、生徒の同時代史である21世紀までを、通史のテーマとして設定しました。
- ⑧ 教科書を無理なく読み通し、読み解くことを通じて言語活動の裾野を広げ、生徒自らが、歴史的事象について、自分の言葉で表現する意欲を喚起するように工夫しました。各章の学習内容とともに、文章表現や漢字の使用・ルビ振りは想定される学習学年に即して段階を追って進むようにしました。言語表現を培う体験の充実を図るため、特設ページ「歴史を体験する」を置きました。
- ⑨ 歴史事象や日常の事物の、多角的・多面的な理解を深めるために、索引ページを充実させました。「琉球」・

「蝦夷地」などの地域名、「綿織物」「生糸」「銀」などの物産を見出し語とし、歴史を通観できるようにしました。年表ページを、資料集としても活用できるように充実させました（20 ページ）。

- ⑩ 以上の工夫・特色を紙面に実現するために、判型をA4判とし、豊富な資料と記述を盛り込めるようにしました。また、堅牢さを確認できたPUR製本をとり、見開きページの図版を活用する場合とA4判に折って机上で使用する場合の使いやすさの両立を図りました。

2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容 ※は、(内容の取り扱い)に関わる事項	該当箇所	配当 時数
歴史への案内	(1)歴史のとらえ方 ア イ ※中学校の歴史の導入として	4～9 ページ 4～5 ページ	4 時間
第1部 原始・古代 第1章 文明のはじまりと日本列島	(2)古代までの日本 ア ※「宗教のおこり」と文明との関わり	12～29 ページ 18～19, 21, 23 ページ (イスラム教については48 ページ) 章扉 (32～33 ページ) に「宗教の広がり」を特設	9 時間
第2章 日本の古代国家	(2)古代までの日本 ア イ ウ ※文化を担った人々への着目	34～53 ページ 46～47, 52～53 ページ	10 時間
第2部 中世 第3章 武士の世	(2)古代までの日本 イ (3)中世の日本 ア イ ※「武家政治の特色」の扱い ※日明貿易、琉球の国際的な役割	58～63 ページ 64～85 ページ 60～61, 64～65, 70～71 ページ 76～77, 84～85 ページ	14 時間
第3部 近世 第4章 世界がつながる時代	(4)近世の日本 ア イ	90～111 ページ	11 時間
第5章 百姓と町人の世	(4)近世の日本 イ ウ エ (1)歴史のとらえ方 イ ※朝鮮との交流や沖縄の役割、北方と交易していたアイヌについて ※身近な地域の特色を生かす	116～139 ページ 140～141 ページ 122～125 ページ 116, 118～119, 120～121, 128～129, 130, 140 ページ	12 時間
第4部 近代 第6章 世界は近代へ	(5)近代の日本と世界 ア イ ※欧米諸国のアジア進出と関連	146～167 ページ 154～159 ページ	11 時間
第7章 近代国家へと歩む日本	(5)近代の日本と世界 イ ウ ※立憲制・議会政治の歴史上の意義	172～189 ページ 182～187 ページ	9 時間
第5部 二つの世界大戦 第8章 帝国主義の時代	(5)近代の日本と世界 ウ エ オ ※世界の動きと我が国との関連に着目	194～219 ページ 197, 199, 208, 211, 212～213 ページ	13 時間
第9章 第二次世界大戦の時代	(5)近代の日本と世界 カ	224～253 ページ	15 時間
第6部 現代 第10章 現代の日本と世界	(6)現代の日本と世界 ア イ ※新たな制度が生まれたことに着目 ※節目となる歴史的事象を取り扱う	258～287 ページ 258～263 ページ 276～277, 279, 280～281 ページ 章扉 (222～223 ページ) に「大戦の終	16 時間

		わりを迎えた世界」を特設	
部の課題	目標(3)他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う ※課題意識を育成	11、57、89、145、193、257 ページ	
章の扉	目標(3)他民族の文化、生活などに関心をもたせ、国際協調の精神を養う ※課題意識を育成	10～11、32～33、56～57、88～89、114～115、144～145、170～171、192～193、222～223、256～257 ページなど	
部のまとめ	目標(4)身近な地域の歴史・具体的な事象を通して…様々な資料を活用して… 内容(1) ウ 時代を大観し表現する活動	54～55、86～87、142～143、190～191、254～255、292～293 ページ	6 時間
章をふりかえる	目標(4)身近な地域の歴史・具体的な事象を通して…様々な資料を活用して… 内容(1) ウ 時代を大観し表現する活動	30、54、86、112、142、168、190、220、254、290 ページなど	
年表	目標(1)我が国の歴史の大きな流れを、世界の背景に…理解 内容(1) ウ 時代を大観し表現する活動	294～313 ページ	
索引	目標(4)多角的・多面的な学習	314～323 ページ	
		計	130 時間